

学校通信



喜多見



No.9 令和7年1月29日

喜多見の学び舎

世田谷区立喜多見中学校

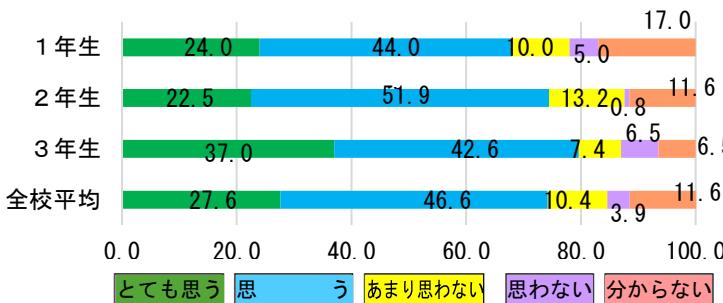
校長 紺谷 祥一

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見4丁目20番1号 TEL 03-3417-4971(代)

E-mail: dai131@setagaya.ed.jp <http://school.setagaya.ed.jp/tkitami/>

学校関係者評価アンケートから(1) 校長 紺谷 祥一

【自分には、「よいところ」がある。】



昨年11月13日(水)から2週間にわたり実施をしました「学校関係者評価アンケート」について、結果がまとまりました。お忙しい中、ご協力をいただき、感謝申し上げます。全ての結果や成果と課題等については、今後実施予定の「学校関係者評価委員会(委員長:香取 葉子 様)」の承認を得次第、本校ホームページに掲載します。今月号では、一つの質問について、話題とさせていただきます。(中面には記述意見について掲載しています。併せてご覧ください。)

上は、自分には「よいところ」があるか、という「自己肯定感」に関する問い合わせ生徒たちに尋ねた結果です。種々の学力調査等にも同様の質問はあるのですが、3年生だけが対象になっているなど学年別に全校生徒を一度に把握できるのは本アンケートのみ。4年前の着任以来、私が一番気にしているデータの一つでもあります。全校平均の肯定群(緑とブルーの合計ポイント)では、74.2%(昨年度:66.4%)、否定群(黄色と紫の合計ポイント)14.3%(同:17.9%)と、統計を取ってからは一番良い結果となりました。自己肯定感は、自分自身を価値ある存在として認めそれを自分で受入れる感覚のことを指しますが、多感な中学生にとって、一定の自己肯定感は非常に大切であると指摘されます。この感覚が育つことで、さまざまな面でポジティブな影響を与えると考えられるからです。中学生は思春期の真っ只中であり、心身が大きく変化する時期。自分に対する不安は周囲との比較等でも強まりやすく、自己否定に陥りやすい傾向があります。一定の自己肯定感は、そうしたストレスやプレッシャーにも負けず、心が安定に保てると言われています。また、自己肯定感が低いと、「どうせ自分には無理だ…」と挑戦する前にあきらめてしまうことも容易に想像ができます。失敗を恐れずに困難に立ち向かうことから得る学びこそ、大切なものはありません。この意味で、主体性の根源となり得る自己肯定感は、学業だけでなく全てのことに繋がる大切な力であると感じます。

グラフデータを俯瞰すると、学年が上がるにしたがって肯定群が増え、否定群が減っていることにも気が付きます。学年が上がるにしたがって、「自己理解」が進んでいると捉えられます。キャリア教育の充実や厳しい受験の現実等を通じ、3年生たちは否応なく自己と向き合う時間をたくさん費やしています。自分の長所短所や特性などを理解したり、将来展望を図ったりするなかで、「自分の良さ」を見出しているものと推察します。**もう一つ、気になるデータがあります。それは、グラフ一番右ピンクの「分からない」と回答している群です。**過去のデータと見比べると驚くのですが、数値が好転したのは「否定群」から「肯定群」に移ったポイントの増減結果であり、「分からぬ群」のポイント数は例年あまり変化がないです。この点について、高瀬スクールカウンセラーに意見を求めるときの分析で、ほっとします。

「分からない」と回答している生徒が、どういう分からなさを持っているのか分からないので、いろいろな仮説が考えられます。中学生年代ではまだ自分のことが分からぬ時期で、これから成長していく中で形作っていく時期もあるので、「分からぬ」とこと自体が悪いことではないと思います。分からぬことに焦らず、先延ばしでもいいと思う。学年が進むにつれて、「分からぬ」が減っているのは、成長もあると思うし、生活の中で自分と向き合っていくプロセスがあるために分かってくることが多いのだと思う。「よいところがある」ということの定義を、どう捉えているかは人それぞれで、もしかするといいことなのに周りと比べたらそんなことがないと感じてしまうこともあるかもしれない。それは残念で、他人と比べなくてよいことです。

中学生の時期に一定の自己肯定感を育てることは、現在だけでなく大人になってからの幸福感や成功にも繋がる、心身の健康や成長にとってとても重要なことだと感じています。自己肯定感をしっかりと育てることで、将来の困難に対処する力、自分の人生を前向きに切り拓いていく力が養われます。学校や各家庭では、「たくさん成功体験を積む」「失敗を許容する」「無条件にしっかりと認める」等々といったサポートが子どもたちには肝要と捉えています。引き続き、指導や支援の方針を確認いただければ嬉しいです。

各学年およびE組の生徒たちの活動の様子をお伝えします

1年生の様子から（倉澤侑）

「見る1年生」として最後の学期となりました。先輩や周りの友達を「見る」ことで、集団として素早く行動することができるようになりました。先日行われた百人一首大会では、国語係が中心となって札や畳などの準備を進めることで、円滑に進行することができました。委員会活動、係活動においても、積極的に声をかける人が増え、喜多見中学校の一員であるという当事者意識をもって動くことができるようになっています。また、集団としての成長だけでなく、個人の目標に向かって挑戦する様子も見られました。12分間で走った距離を記録する「クーパー走」では、自己ベスト更新を目標に毎回の授業に取り組んでいる生徒が多く見られました。毎回伸びた記録を報告されるたび、生徒の成長に驚くばかりです…！



3学期は「見られる2年生」へつながる、大切な時期です。集団、個人として成長していくよう、皆で高め、支えあえるような3学期にしていきましょう。

2年生の様子から（西城有里加）

1月24日(金)、2年生は「規律を守って協調し、今後に生かせる学びを得よう」というスローガンの下、鎌倉校外学習に出かけました。2学期から実行委員を中心に事前準備を進め、朝いちのチェックポイントだった喜多見駅では、すべての班が計画通りの電車に乗って出発できていました。現地では、道を間違えてしまったり、予定の電車に乗れなかったりしたものの、見学施設で出会ったどの班も本当にいい表情で、大きな怪我や事故なく全員が帰ってこられたのは、紛れもなく皆さんのが力だと思います。

「自由には責任が伴う。」前日指導での安達先生の言葉を覚えていますか。今回の校外学習にあたって、服装やお小遣いの金額など、普段の学校生活と比べてかなり自由度の高いルールだったと思います。実行委員会を始め、各クラスでの検討会を重ねて、皆さんの声からルールを作っていました、「自分たちで決めたルールだったらしっかりと守れるだろう」という先生たちの期待からです。今回の経験を振り返り、成功談・失敗談を来年度の修学旅行に生かしていきましょう！



3年生の様子から（杉本祥太）

「志望校」を「母校」に ～みんなで実現しよう～

左はみんなで協力して受験を乗り越えようと学級委員が考えた3学期の目標です。この目標のもと、それぞれが志望校の合格に向けて頑張っています。

休み時間にも勉強をする生徒、わからない問題について質問をする生徒、面接練習を校長先生や担任の先生にお願いする生徒、小論文の添削を飯森先生にお願いする生徒など…。

そんな中、1月末には推薦入試が行われました。この試験で進学先が決まる人も出てきます。決まった人はほっとして騒きたくなるかもしれません。しかし、都立一般入試の結果が出るまでは試験前の緊張感を忘れてはいけません。学級委員が考えた目標は「みんなで実現しよう」です。自分が決まつたら終わりではありません。みんなが決まって初めて受験が終わります。目標の達成に向けて、授業の雰囲気づくりから互いに協力しながらみんなで受験を乗り越えていきましょう。

E組の様子から（細井俊吾）

E組の3学期は穏やかなスタートとなりました。どの学年も自分たちの教室や共有スペースに安心感をもち落ち着いて自分の時間を過ごす姿が見られました。また、一緒に授業に参加していても、それぞれの授業で生徒がお手伝いをし、係の仕事をこなすなど、少ない人数であることをカバーしながら取り組む様子が見られました。そのため、教員だけでなくE組に携わる様々な大人から生徒への“できたことやがんばりを認める”声掛けをより多く聞いたひと月でした。4月からの成長を日々感じています。

1年生は交流もがんばりました。1つ目の英語の体験型イベント Tokyo Global Gateway では3人と2人に分かれ他クラスの班に混ざり、スタッフとの対話に挑戦していました。それぞれのミッションをクリアするべく知っている単語を駆使したり、分からぬところを班員に協力を仰ぐなど、外国人の人や他クラス交流を経験しました。2つ目の百人一首大会では班で他クラスと対戦を行いました。前日や当日の朝までE組内で練習を重ね、「(一覧を持って帰って)まだまだ覚えなきゃ!」「自陣だけは死守するんだ」と意欲的に参加する姿を見ることができました。





今号の「わたしのきたみち」は、阿部 ●●さん（R.2 年度卒）からのメッセージ。中学校時代は茶道部の副部長として日頃のお稽古に励みながら、区民まつりや慶元寺でのお茶会に積極的に参加し、美しいお手前を披露していた姿がとても印象的です。

私は中学の頃、学校へ行けないことが多々ありました。そんな中コロナの流行により長い期間の自宅学習が続き、授業再開頃には学校へ行くハードルがとても高くなり、その影響により3年次はほとんど教室へ通うことなく中学校生活を終了しました。それから通信制高校へ進学、通信制といつても私が選んだ学校は通えるキャンパスがある学校でした。レポート課題をし、スクーリングへ行くことで単位取得ができるので卒業の為に必要な部分は他の通信制高校と変わらず、それに加えキャンパスがある事で先生や同学年の人達と交流もできるといった所が私の通っていた高校の良かった点です。1年次からゆっくりと慣れ、人と関わっていったことにより高校を卒業する頃には入学当初と見違えるほど前向きになっていました。歳を重ねたことによる精神面の成長もあると思いますが、それ以上に周りの環境のお陰だと思っています。好きなものを人に話すことが苦手だった私に寄り添って話を聞いてくれた先生が居てくれたことで好きなものを好きだと言えるようになり、それがきっかけで出来た友達が居て学校へ行きたいと思えるようになりました。その後現在は新潟産業大学通信過程、managara という大学へ進学し勉強しています。高校入学時から大学に入るまで色々と目指したいものが変わりつつ、現在は明確な目標をもっていませんが大学在籍中にやりたいことを見つけていきたいと思っています。大学は完全なオンライン型で、全て自己管理の学習方法をとっているので少し大変な部分もありますが、学習管理さえきちんとしていれば、趣味に使える時間も多くとれるので動き回れる自由度を求めている人にはおすすめです。

このように私は学校へ通うことが難しくても、大学進学までやってこられました。これまでの学校生活で学んだことは無理に変わろうとせず、自然体でいられるようになるということです。どんなに小さなことでも見ていてくれる人が居て、自分でやら覚えていなかったような些細なことからきっかけが生まれることもあります。ゆっくりであっても、それは確実に先へ進む一歩です。大きな目標に挑戦することも、ただ好きなことをしているだけでも、積み重なれば未来への自己投資になるので今を楽しんで過ごしてください。

（写真は、本校茶道部にて。毎週の月・木には外部指導員としてご指導いただいている！）



「保護者による自由意見」（抜粋）とその回答 学校関係者評価から（2）

ご協力いただきました学校関係者評価アンケート（自由記述欄）には、教職員に対するたくさんの感謝の言葉や慰労等のほか、ご指摘や貴重なご意見等をお寄せいただき感謝申し上げます。本コーナーでは、すぐにご回答できる意見等（表現一部改）を抜粋し、学校としての状況や見解また方針等についてお伝えいたします。

- いつもご指導ありがとうございます。失敗をしてしまった生徒を指導してくださるときに、個別に呼び出して話を聞くのにやや違和感を覚えます。さらし者にしてはいけないという、時代の流れなのかもしれません、他人の失敗が学びになることもあると思います。これはいけないことなんだ、知らなかった！この一線をこえたらいけないんだ、自分はなんとも思わないが嫌だと感じる人もいるのだな、など（気づかせたい）。
→ 学級でのトラブルなど、何か問題があった際の保護者への情報共有が不足しているのではないかという同様の意見も受けています。事案にもよりますが当該生徒の保護者には逐一の連絡に努めていますが、全家庭には届けておりません。一方、学びに通じる事案は学年を問わず積極的に全校生徒に話して考えさせるのを基本としています。また、事後の顛末等についても積極的にオープンにし、引き続き安心に繋がるようお伝えします。
- 喜多見は内申点が取りにくい学校と噂されているのをご存知ですか？ 生徒だけでなく学校側にもメリットがないのではないでしょうか。平均点の低いテストを続ける科目は授業やテスト作成が（教師側の）自分本位ではないか、生徒のためになっているのか改めて考えて欲しいです。
→ 定期考査は学習内容の定着度合いの確認を旨として実施しており、今年度特に一部の教科で低い平均点が見られたことは、指導内容や作問について反省があるところです。しかしながら、調査書等の内容については特異な分布や学校間での大きなばらつきが生じないよう、毎年教育委員会のもとに審査会（今年度は1月7日実施済み）が行われております。ご指摘を真摯に受け止め、生徒のためにある授業と評価をしっかりと実感いただけるよう、努めます。
- 部活動の外部での活動の際、顧問の引率は必要ないのかが知りたい。遠いところでも現地集合、現地解散になるのか。引率しないのであれば、緊急時どうすればよいのか、生徒にきちんと伝えて欲しい。
→ 集合場所の遠近や交通手段等の条件により、事前に保護者の皆様にお伝えすることを前提に顧問の判断としています。また、緊急時の連絡については3台の公用携帯電話を各顧問教員が活用している他、週休日や休祝日等は常駐の学校警備（03-3417-4972）が取次ぎを行います。各部からの指導や連絡を徹底させます。
- 毎月の行事予定表が分かりづらいので改善希望です。研二研修、など備考にありますが、その他の表記で何かわからないものもあります。子供が何時に帰ってくるのかわかるようなものにしていただけますと助かります。
→ ご指摘を受け、すでに1月の予定表から表記を改めました。なお、区の指導により、防犯・安全上の観点から下校時刻についてホームページ上に明記することはしませんので、紙面での確認を引き続きお願ひします。

1年生 TGG英語村に行ってきました！

16日(木)、1年生は江東区青海にある Tokyo Global Gateway にて、グローバルな世界を存分に体験してきました。

学校からバスで向かい、到着してみると想像以上に大きな施設にみんな驚いていました。入館するとすぐにエージェントの方々から英語でいさつやグループ活動、体験活動が始まりました。最初は緊張していた面持ちだった1年生でしたが、だんだん慣れてきて、積極的にコミュニケーションを取るようになりました。パスポートを受け取ったり、英語で撮影をしたりと普段できない体験を存分に楽しみました。この経験をもとに世界に大きく羽ばたけ喜多見中1年生！



2年生 校外学習に行ってきました！

穏やかな好天に恵まれた24日(金)、鎌倉へ校外学習に行ってきました。生徒の作文を読むと、「人々の思いや、その時代の背景を背負っていることを知り、神社が少し好きになった」「計画的かつ、入念に準備することの大切さを学んだ」「私は班行動が好きではなかったけど、行ってみると普段とは違う楽しさを感じた」など様々なことを実体験を通して学んだようです。今後、撮影した素材を基に「鎌倉のCMづくり」を行う予定です。みんなの思い出が詰まったCMを楽しみにしています。



おめでとう、若原 ●●さん 第15回 世田谷ガリレオコンテスト 最優秀賞 ガリレオ賞受賞！！

18日(土)、第15回「世田谷ガリレオコンテスト」研究発表会が区教育総合センターにて開催されました。区内各中学校の1,2年生より全2636点の出品があり、一次審査通過は9作品のみ。本校からは、2年A組の若原 ●●さんが選ばれ、発表を行いました。実は、若原さんは2年連続でのノミネート。昨年度の研究から見えた新しい気付きをきっかけに、筋道を立てて研究した成果が最優秀賞として高く評価されました。植物の蒸散量が気温上昇の抑制に繋がることを突き止め、都市の緑化の大切さをグラフや数値で見事に表現しました。代表9名の本校生徒のノミネートは、3年前の和田さん、一昨年の稻葉さんに続いて、これで4年連続の快挙です。偉業にも常に謙虚であり、少し照れながらはにかむ笑顔がとても素敵な若ちゃん、おめでとう！！



私費会計（教材費）が一括徴収になります　～ご協力のお願い～

教材費等の私費会計の徴収にあたっては、今年度の「3回分割または一括全納」の選択から、来年度は「一括全納」の一本化へと変更します。納金の期限につきましては、例年通りに段階を設けますので、ご負担を強いることとなります。何卒ご協力についてよろしくお願いします。詳しくは、新年度にすぐお伝えします。

◎参考（今年度実績）1年生：33,400円、2年生：21,000円、3年生：36,000円 ※いずれも6月中旬徴収予定)

2月の予定から

- 2月 3日(月) 学校公開(～8日 ※学習成果展覧会)
7日(金) 学校保健委員会
8日(土) 第2回新入生保護者説明会
(11時00分から11時50分 於：体育館)
12日(水) 学び舎の日(小学校の先生方が来校されます！)
19日(水) 職員研修(1C以外は給食後下校。1Cは5校時あり)
21日(金) 都立分割前期・一次入試(発表3/3)
26日(水) 学年末考査(～28日 この間給食なし)



学校保健委員会

日 時：令和7年2月7日(金) 午後2時40分から3時20分まで
(※懇談会 3時30分から3時50分まで)

会 場：本校体育館・被服室(懇談会)

内 容：「子どものための足育」 ぜひご来校ください！

講 師：アキレス株式会社お客様相談室 林 達夫 様

成長過程の子どもの足には極力負担をかけず「はだしに近い感覚で歩くこと」、そして「人間がもつ足本来の機能を取り戻し、足の正しい育成を促すこと」、これこそが足育です。(会社HPより引用)

2月の相談室の開室日

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	1

【担当SC】□：江部 ○：高瀬

【場所】相談室は中央校舎1階 保健室の隣です

入学予定の児童保護者の方の相談もお待ちしています！

相談室直通ダイヤル
03-3417-5372